

ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学子ども学科

講師 福泉 博子

1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として保育士資格、幼稚園教諭2種免許状取得における音楽・ピアノにおける分野の教科を担当している。

2021・22年度の担当科目は（表1）の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
音楽	2021	通年	1年生	演習	22名 22名 22名	3クラス ※前期 教員2名 ※後期 教員5名
音楽Ⅰ	2022	前期	1年生	演習	35名 35名	2クラス ※教員2名
音楽Ⅱ	2022	後期	1年生	演習	24名 23名 23名	3クラス ※教員5名
ピアノA	2021	前期	2年生	演習	23名 24名 23名	3クラス ※教員4名 コロナのため、1 年前期科目を2年 前期に移動
ピアノB	2021 2022	後期 前期	2年生 2年生	演習	23名 24名 23名 20名 21名 20名	3クラス ※教員4名 コロナのため、2 年前期科目を2年 後期に移動

音楽表現の探究	2021	後期	1年生	演習	33名 33名	2クラス ※教員1名
保育内容表現	2022	後期	1年生	演習	24名 23名 23名	3クラス ※教員3名
子ども文化演習B	2021 2022	後期	2年生	演習	71名 64名	※教員3名
基礎演習 総合演習	2021 2022	通年 通年	1年生 2年生	演習 演習	66名 64名	※教員4名
キャリアアップ セミナーⅠ	2021	通年	1年生	演習	66名	※教員4名
キャリアアップ セミナーⅡ	2022	通年	2年生	演習	64名	

(表1) 2021・2022年度 担当科目詳細一覧

委員会名	年度	備考
図書・紀要委員会 (委員長として)	2020 2021 2022	図書・DVD等の購入。 紀要の編集と発行。図書館便りの発行。 埼玉県 図書館と県民のつどいへの参加。 図書館アンケートの実施。学園祭への参加。 くつろげる空間づくり等を行う。
学生支援委員会 (2020委員として) (2021・22委員長と して)	2021～	新型コロナウイルス感染症対策。 学生の学園生活の指導や支援と心のケア。 遠隔地通学生、職業訓練生の対応と支援。 学生のあいさつ運動やマナー向上。 学生会(総務委員会・山緑祭実行委員会)の対応 学生総会・学園祭等の学生主体行事の取りまとめ サークル活動の対応。 各種奨学金に関する対応。 避難訓練、交通安全運動の実施。

(表2) 2021・2022年度 委員会詳細一覧

2. 教育の理念

私が音楽教育に携わってきた中で、保育者を目指す学生たちに対して心がけていることは、音楽の基本や原点を丁寧に指導するとともに、感じる心や想像力を養うことである。そして、子どもたちと一緒に音楽活動を楽しみ、伝えることができる人材を育成することである。

保育者を目指す学生の中には、ピアノ未経験者や初心者が非常に多く、基本的な知識も皆無である。音楽の知識やピアノ奏法などの技術を学ぶことは大変困難ではあるが、2年間という短い時間の中で保育者として自信をもって音楽活動に取り組めるよう、次にあげる5つの項目を学生に習得してほしい。そして、広い視野と柔軟な心や発想力で子どもたちの心を育むとともに、保護者や地域の方と関わってほしいと考えている。

- ①楽譜を読む力（読譜力）
- ②演奏する力（ピアノなどの鍵盤楽器・子ども達が扱う楽器）
- ③歌唱力（正しい発声ができる。適度な声量で子供と一緒に楽しみながら歌える。）
- ④感じる力（自然や生活の中で五感を使って感じる）
- ⑤表現する力（声や体、楽器はもちろん様々な手法を使った音の表現）

3. 教育の方法

担当している教科は演習科目であり、1名で担当する科目もあれば、複数で担当する科目もある。ここでは、専門分野の「音楽(2022年度からは音楽Ⅰ・Ⅱ)」「ピアノA」「ピアノB」「音楽表現の探究(2022年度からは保育内容表現・音楽)」の4科目についての教育の方法を示す。

(1) 音楽／音楽Ⅰ・Ⅱ 1年生

【授業の概要】

保育士資格必修の本科目は保育者として必要となる音楽の基礎的な知識、技能の理解と習得を目指す。そのため、楽典や歌唱法、ソルフェージュに関する授業を前期に、ピアノや弾き歌いなどの個人レッスンを後期の授業で実施し、音楽全般について総合的に学習します。また、本学の自然環境を生かした音遊びの中で五感と想像力を養う。

【ねらい】

- 1) 幼稚園や保育所などで歌う「こども・幼児のうた」の特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながら幼児の指導ができる力を身につける。
- 2) 自然や生活の中にある音を感じ、声や身体、楽器、身近にあるものを使って音

楽を奏でる方法を習得する。また、それらの方法を用いて、子どもの発達に合わせた活動が出来るようにする。

【内容と到達目標】

音楽Ⅰ

- ① こどものうたの特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながらこどもと関わる。
- ② 音楽の知識を身につけ、一人で読譜ができるようにする。
- ③ 歌唱やドレミパイプなどの単体楽器での合奏を通して演奏する楽しみ、他者と合わせる楽しみを体験の中から感じとる。

前期は2名の教員で授業を行う。①②では音楽（ピアノ）未経験・初級者クラスと経験者クラスの2グループに分けグループレッスンや個別指導で学生一人一人が理解できるよう心掛けた。また、③ではグループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と人との関わりを学べるようにした。

音楽Ⅱ

- ① 初級者は、ピアノ・弾き歌い進度表（山村短大オリジナル）の応用Ⅱまでの習得。
- ② 中級者は、ソナチネアルバムⅠやブルグミュラーの習得。
- ③ 上級者は、ソナタアルバムや同レベルのピアノ曲の習得。
- ④ 生活のうた、季節のうたなどを通して、子どもの心に伝わる歌い方ができる。
- ⑤ 子どもの歌、手遊び、読み聞かせ等保育者は発声をする機会が非常に多い。

声楽レッスンを取り入れ、豊かな声で歌唱、発声ができるようにする。

音楽Ⅱでは、ピアノレッスン（4名）、声楽レッスン（1名）計5名の教員が毎週個人レッスンを行う。学生一人に対してのピアノレッスン時間は18～20分。その他の時間は個人練習時間とし、課題練習の時間にあてた。ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個々にあった指導を心掛けている。また、声楽レッスンは3週に1度15分程度の個人レッスンを実施し、歌唱表現力向上をねらう。

（2）ピアノ A （2021年度1年生）

【授業の概要】

保育現場で必要とされる鍵盤楽器（ピアノ）の奏法を学ぶ。ピアノ未経験者から上級者まで、個々のレベルに合わせたレッスンを行う。初級者はバイエルなどの教則本を使い初歩的技術の習得を、中・上級者はソナチネなど様々な楽曲を用いて総合的な音楽力を身につけ、園生活で使われる基本的な生活の歌を習得する。

【ねらい】

読譜力を身につけ、正しい運指法、打鍵法で演奏できるようにします。幼稚園・保育所等で歌う生活の歌を弾き歌いできるレベルを目指す。

【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、4名の教員でピアノレッスン（個人レッスン）を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15～20分程度。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。
- ②初級者は「ピアノ・弾き歌い進度表」の基礎Ⅰまでを、中級者は基礎Ⅲまでを、上級者はソナチネ・ソナタ・ブルグミュラーなどが演奏できる。
- ③園で歌われる生活の歌や季節の歌、童謡などが弾き歌いができる

（3）ピアノ A（2021年度2年生・前期）

新型コロナウイルス感染症の影響により、1年生前期から2年生前期に授業実施期間を変更した。

【授業の概要】

この授業は「音楽」における習得成果を踏まえ、保育現場で必要とされる鍵盤楽器（ピアノ）の奏法や弾き歌い、和音やコードを使った伴奏付けなどに必要な技能を学ぶ。

【ねらい】

音楽的な資質・能力を高め、実際に保育現場から求められる要求に応えられる専門性を身につけることができる。習熟度の低い学生は、読譜力と演奏技術の向上を目指す。

【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、4名の教員でピアノレッスン（個人レッスン）を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15～20分程度。保育現場でのピアノを使った活動に困らないように、読譜力向上に力を入れた。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。
- ②習熟度の低い学生はバイエル100番程度の難易度の曲が演奏できる。弾き歌いでは和音や分散和音を用いたこどもの歌が弾きこなせるようになる。
- ③中上級者はブルグミュラー、ソナチネ、ソナタや、それらと同等のピアノ曲を

演奏することができる。また、コードや伴奏法を用い、童謡などに伴奏がつけられるようにする。以上の3点を到達目標とした。

(4) ピアノ B 2021年度2年生・後期 ※ コロナのため、2年前期科目を2年後期に移動
2022年度2年生・前期

【授業の概要】

この授業は「音楽」「ピアノA」における習得成果を踏まえ、保育現場で必要とされる鍵盤楽器(ピアノ)の奏法や弾き歌い、和音やコードを使った伴奏付けなどに必要な技能を学ぶ。

【ねらい】

音楽的な資質・能力を高め、実際に保育現場から求められる要求に応えられる専門性を身につけることができる。習熟度の低い学生は、読譜力と演奏技術の向上を目指す。

【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、4名の教員でピアノレッスン(個人レッスン)を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15分程度。現場でのピアノを使った活動に困らないように、読譜力向上に力を入れた。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。
- ②習熟度の低い学生はバイエル100番程度の難易度の曲が演奏できる。弾き歌いでは和音や分散和音を用いたこどもの歌が弾きこなせるようになる。
- ③中上級者はブルグミュラー、ソナチネ、ソナタや、それらと同等のピアノ曲を演奏することができる。また、コードや伴奏法を用いて童謡などのこどものうたに伴奏をつけられるようにする。

(5) 音楽表現の探究(1年生・2021年後期)

【授業の概要】

保育士資格選択必修、幼稚園教諭2種免許状必修〔大学が独自に設定する科目〕

この教科は、幼児の感性や創造性を育む方法や構成を実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力の習得を目的とする。また、発表会などのステージ発表を通し、準備工程や他者との協働の大切さを学ぶ。

【ねらい】

- ①音楽遊びを通して幼児の音楽的感覚を育てる方法を学ぶ。
- ②合唱や合奏活動を通じて歌唱法や幼児が使う各種楽器の奏法を学び、保育者に必要とされる指導技術を身につける。
- ③発表会や行事の準備を通して園行事(音楽会)の流れを習得する。

【内容と到達目標】

音楽遊び・音楽づくり・リズム遊び・合唱・合奏等の授業を行う。子どもの遊びや活動の中に音や音楽を取り入れた展開が行えるようにする。

到達目標は、次の①～⑤とする。

- ①表現が目指すもの、もたらすものを学び、音楽の力が幼児に与える影響を理解、分析することができる。
- ②表現する楽しさを実感し、合唱や合奏を通してハーモニーの重なりや美しさを楽しむことができる。
- ③歌詞や旋律が意図することを理解し、より幅広い表現ができるようにする。
- ④協働して表現をしていく事を通し、他者と共感しながら豊かな表現につなげていくことができるようにする。
- ⑤表現の知識技能を活かし、幼児の表現活動に展開させることができるようにする。

4. 教育の成果、評価

2021年度の前期・後期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。各設問の内容は次の通りである。(表 3-1)

問1 学生自身の、この授業への取り組みについて
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。
3, 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。
問2 授業内容について
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。
3, 授業の進度(速さ)は適切でしたか。
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。

問3 授業の進め方について
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。
3, 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。
問4 全体的評価
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。

(表 3-1)

2021年度の前期授業アンケートの結果一覧 (5点満点)

	音楽 (前期)	ピアノ A (1年)	ピアノ A (2年)
問 1	1 4.48	1 4.49	1 4.10
	2 4.48	2 4.49	2 4.31
	3 4.65	3 4.43	3 4.14
	4 4.49	4 4.49	4 4.19
	5 4.38	5 4.46	5 4.14
問 2	1 4.48	1 4.49	1 4.31
	2 4.40	2 4.51	2 4.33
	3 4.35	3 4.57	3 4.38
	4 4.57	4 4.55	4 4.29
問 3	1 4.68	1 4.65	1 4.41
	2 4.58	2 4.66	2 4.38
	3 4.62	3 4.49	3 4.28
	4 4.63	4 4.52	4 4.38
	5 4.72	5 4.57	5 4.40
	6 4.69	6 4.58	6 4.38
問 4	4.57	4.55	4.40

(表 3-2)

2021年度の後期授業アンケートの結果一覧（5点満点）

	音楽（後期）	ピアノ B	音楽表現の探究	子ども文化演習 B
問 1	1 4.26	1 4.15	1 4.40	1 3.96
	2 4.45	2 4.40	2 4.51	2 3.93
	3 4.28	3 4.13	3 4.53	3 3.82
	4 4.41	4 4.19	4 4.53	4 3.74
	5 4.38	5 4.21	5 4.55	5 3.82
問 2	1 4.57	1 4.34	1 4.62	1 3.81
	2 4.60	2 4.42	2 4.64	2 3.68
	3 4.62	3 4.32	3 4.60	3 3.60
	4 4.62	4 4.43	4 4.62	4 3.89
問 3	1 4.71	1 4.65	1 4.64	1 3.88
	2 4.66	2 4.66	2 4.64	2 3.77
	3 4.53	3 4.49	3 4.62	3 3.82
	4 4.62	4 4.52	4 4.64	4 3.81
	5 4.71	5 4.57	5 4.62	5 3.89
	6 4.66	6 4.58	6 4.65	6 3.86
問 4	4.53	4.55	4.65	3.81

（表 3 - 3）

（1）音楽

本年度もコロナ感染対策を考慮をした授業を心掛けた。【問 1】では、全ての項目で 4 点台を得ており、学生のこの授業に対しての興味や意欲が高かったものと考えられる。

【問 2】の授業内容についても 4 点台の評価となっている。授業の進捗については、初心者で若干進捗が速いと感じていた学生がいたため評価が低くなったものと思われる。

【問 3】の授業の進め方についてはすべての項目で 4 点代後半となっており、設問 5「教員は学生の質問に対応し回答していましたか」では、4.72 の評価を得ており、教員の指導が学生ひとりひとりに行き届いていたものと思われる。

【問 4】の全体評価では、平均が 4.57 となっており、授業内容が適切であり、教員の指導についても満足できるものだったと学生が評価してくれたようだ。今後も学生たちの学習意欲が湧くような授業内容や指導を行いたい。学生からの記述では、「先生の教え方が丁寧で分かりやすい」「ひとり一人のペースに

合わせて指導をしてくれた」「分からない場所を分かるまで教えてくれた」などの教員の指導方法についての意見が多かった。読譜に必要な基礎知識を習得させるのがこの授業の目的だが、多くの学生がその目的を理解し授業に臨んだものと思われる。また、音楽理論だけではなく、楽器作りやサウンドエデュケーションを取り入れた授業が楽しかったという記述とともに、復習プリントの希望の記述があった。テキストにある問題集を学生には復習として出しているが、今後はプリントも取り入れていきたい。

後期に関してはピアノの個人レッスンの授業となり、教員ひとりが4～5名の学生を受け持つ。特定の学生としか関われなくはなるが、個々の特徴や性格を熟知でき、よりの確な指導ができたのは良かった。レッスンは対面で行い、コロナ対策として、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、換気、手指消毒、楽器を含めた共有機材の消毒の徹底を行った。また、レッスンでは弾き歌いの歌唱は極力せずに、学生各自に自宅での練習を課した。

全体的に高めの評価になっている。平均で一番低い数値となっている問 1-1 は自身の欠席、遅刻及び早退に関する設問で、ここだけ低い評価にする者が複数おり、振り返って自己を反省しているのであれば、次に生かして欲しい。

問 2 の授業内容や、問 3 の教員に対する評価は押し並べて高いと言えるが、その数値に比べれば問 4 の評価が少しく低い。詳細を見ると、1 名、問 1 から問 3 まで評価せず、問 4 を「1」とする者がいた。余程不満があったのかと思うと、問 5 の自由記述では上達してきたことへの実感、レッスンが楽しいものであったことを担当教員名まで入れて縷々述べており、またさらに、より良い学習環境を想定して教室の設備に対して具体的な提案を試みているところなどを見ると、パソコンやスマートフォンからの入力であることを鑑みて何かの操作ミスであると思われない。

5名の講師で学生を割り振って担当したが、全般的に一人一人の能力や個性に向き合って指導できたのではないかと思う。個人の理解能力や技術力はそれぞれ違うものであるが、実際のレッスン時間は長くなくとも、個人として向き合う時間を取ることによって、ある程度学生一人一人の力に合わせた指導ができたようである。

(2) ピアノ A 1 年生

昨年に引き続きコロナ禍での授業ではあったが、講師も学生も徹底した感染対策を心がけたおかげか、授業での歌唱レッスンも取り入れられて、前期の試験でも弾き歌い試験が実施できて良かった。問 1 では 1 と 3 に 2 の評価がみられた。1 の出席に関するもので、特別欠席が目立つ学生は居なかったように思う。3 での 2 の

評価については、ピアノの実技レッスンということもあり、板書等がなく常に口頭で要点を伝えているため、より丁寧な伝え方と、適宜楽譜に書き込むよう指示するなど心がけたい。問2では3の評価が1番低く複数人見られるが、全て3評価にされていたり、「楽しかったです」などというコメントが残っており、授業内容に特別不満を抱いてるわけではないように思う。問3はこちらも複数人3評価が見られるが、概ね4以上の評価で「1対1の授業が良かった」「丁寧な説明だった」などのコメントがあるように、1人1人の習熟度に合わせた指導が出来ていたのではないかと思う。今年は初心者の中でも、初心者講習を受けている学生とそうでない学生がおり、それにより4月時点でやはり実力の差が出ているように感じた。「ピアノ弾けないです」「全然出来ません」などネガティブな意見もいくつか目につき、中でも弾き歌いの苦手意識が高いことが伺える。コロナ禍ということもあり、歌唱のレッスンは遠ざけられる傾向にあるが、引き続き感染対策の徹底を心がけ、日々のレッスンでさらに積極的に弾き歌いの指導に取り組みたい。また、このアンケートでも毎回レッスン時間の不平等を訴える声上がるのだがそれが今回はひとつも見られなかったことに安心した。90分を学生数に応じて均等に時間を割り振り、分刻みのスケジュールを各講師が作成しているが、学生のレベルによって守ることが難しい場合もある。しかし正確な時間配分は学生の授業への満足度に大きく影響するため、引き続き注意していきたい。

(3) ピアノA(2年生)

<問1>全ての項目で4点台となっており前向きに授業に取り組めた学生が多かったことが窺える。

<問2>授業内容についても高い評価となっており、進度、レベルともに各学生に合わせた個人レッスンの成果があらわれていると感じる。また4の能力の高まりについても5点をつけている学生も多く、多くの学生が上達を実感できているようである。

<問3>授業の進め方についてはさらに高評価で、特に5と6の質問について点数が高いことは、学生一人一人への細やかな対応を心がけていることが伝わったようで大変嬉しい。

<問4>授業全体を見てもこの高い評価ということで、学生にとってとても有意義な授業ができたのではと思う。

今年度はコロナウィルスの為に歌唱練習や練習室使用には引き続き制約があるなかでの授業となった。しかしこの学年にとっては昨年度の授業状況とくらべれば、やっと落ち着いて授業に励めるという状況であり、そのことがより前向きな取り組

みにつながり、結果このような高評価につながる事となったのではと考える。自由記述には、「一人ひとり分かりやすく指導してもらえた」「丁寧に教えてくれた」「自分のレベル・ペースで進められた」などとあり、個人レッスンの利点をしっかり感じてもらえたようで嬉しい。そして「ピアノの技術があがった」「苦手なピアノも頑張って練習できた」「曲数を増やすことができた」など、効果を感じさせる言葉もあった。一方「時間が限られている為、納得いくまで指導を受けられない」という不満もみられた。受け持ちの人数を 90 分で回すのでレッスンが短時間になるのは仕方ない事ではあるが、よりいっそう時間配分には気を配るようにしたい。また短時間でも効率的に指導する為に、学生とのコミュニケーションを常に大事にし学生の求めることに素早く対応できるように心がけたい。「ピアノ難しい」とも記述にもあったが、とにかく苦手意識が先にたっけししまい欠席が多くなったり、積極的に予習復習ができなかつたりする学生もいる。そういった学生のモチベーションを保つためにも、出席してレッスンを受ければ練習方法から学べ少しずつでも上達できることをしっかりと伝えていきたい。

(4) ピアノ B

履修者数に対して回答者数が少ないのが気になるが、回答された結果を見る限り、概ね良い学習ができたようである。全問を通して一番低い平均を出したのが問 1-3 である。詳細に見ていくと、ほぼ「5」の評価を付けている者がこれだけ「1」にしていて、大きく平均を下げている。実技レッスン主体の授業では楽譜に直接書き込むことが普通であるが、「配布プリント等」と書いてある文を狭い意味で捉えたように思う。

同じように、問 3-3,4 のみ低く付けた回答があり、通常は板書等行わず、毎回講師側が資料を整えるわけではないことを反映しているものであろうか。

問 3-1,2,5,6 あたりが比較的高評価であるのは、複数の担当教員できめ細かく個人個人のレベル、特性に合わせて指導できたものと、嬉しく思う。

それにしても問 4 の全体的評価が少し低いように思うが、問 2、問 3 を高く評価しながら、ここを低く付けた者が複数おり、問 1 の評価とも考え合わせると、多少とも自己の取り組みに対する反省の要素が含まれていそうである。通常であればこの『ピアノ B』は前期に設定されていたものであるが、一年次の前期科目『ピアノ A』が開講できず、二年次の前期に『ピアノ A』、そして後期に『ピアノ B』というカリキュラムになった。図らずも後期に行われたことで就職試験時のサポートもできたのは好ましい点かと思われる。

この『ピアノ B』の最後の試験は新型コロナウイルスの新たな流行により通常と違

う対応を余儀なくされ、講師側としては状況に合わせて精一杯対応をしたつもりであるが、学生側としては最後にまた急な予定変更で戸惑ったことと思う。しかし、問 5 の自由記述を見ると、そうした戸惑いではなく、例年と変わらぬような感想が見られ、歌唱練習においてもマスクを外せぬ特殊な状況が続く中でも屈託ない成長を感じることができ、頼もしく思う。

指摘のあったように、確かに一部の練習用電子ピアノは音抜け等が確認され、なかなか学期途中ですぐに入れ替えとは行かなかったが、消耗品であるため定期的な入れ替えを心掛けていきたい。

(5) 音楽表現の探究

全体を通して 4.40～4.65 の高い評価となった。

問 1 の授業への取り組みについては、学生同士が協力しながら活動が行えており、学ぶ姿勢も比較的良い学生が多かった。問 2 の授業内容については、1, 2 点を付けた学生はおらず、内容のレベル、速さ共に的確だったことがうかがえる。問 3 の授業の進め方でも、1, 2 点を付けた学生はおらず、多くの学生が 4.5 点の評価を付けた。問 2, 3 の結果から、子どもたちとできる音楽活動を学生自身が楽しみながら実践し、自身が感じたことを保育者として子どもに伝える術を習得できたと思われる。また、問 4 の全体評価では、4.65 と高い評価を得ており、子どもの成長において、音楽表現の重要性を理解するとともにこの授業が有意義であったと感じた学生が多かったと考察される。

自由記述では、「幅広い音楽表現法が学べた」「実際に行った音楽活動を指導案に起こし、考えながら指導法を作り上げるのが勉強になった」などの意見があった。音楽活動の楽しさを子どもに伝えるのはどのような工夫が必要か。音符が読めない子どもたちにどのように指導していくか。遊びの中で他人と合わせる協同性をどのような方法で身に着けていくか等、これからの授業の中でもう少し踏み込んだ指導を行いたい。また、ICT を使った音楽表現法にも着手したい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 音楽Ⅰ・Ⅱ

<p>短期的目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典の理解と読譜力の向上。 ・こどものうたの特性を学びながら歌唱力の向上を図る。 ・音を五感で感じ、様々な手法で表現できる学生を育成する。 ・グループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と、人との関わり方を学べる授業展開を行う。 ・ピアノや楽典では、ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個別指導を取り入れ、より丁寧な指導を行う。
<p>長期的目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設備面の充実を図る。(電子ピアノ等) ・学園内の自然環境を生かした、音を感じる空間づくり ・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

(2) ピアノA / ピアノB

<p>短期的目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典の理解と読譜力の向上。 ・拍子やリズム感を養う。 ・ピアノ演奏、弾き歌い技術の向上。 ・コードや和音を使って学生自身が歌の伴奏をできるような指導を行う。 ・レッスン時間の確保。ひとり 18分～20分 ・リトミックで活用できる楽曲や演奏法を取り入れた指導。
<p>長期的目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設備面の充実を図る。(電子ピアノ等) ・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

(3) 保育内容表現・音楽

短期的目標	<ul style="list-style-type: none">・音楽を楽しむことができる保育者を育成する。・音を五感で感じ、様々な手法で表現できる保育者を育成する。・こどもが使う楽器の奏法を知り、演奏ができる。・こども達に合奏の指導ができる。・正しい発生方法を知り、程よい声量で歌うことができる。・こどもにふさわしい歌い方を指導ができる。
長期的目標	<ul style="list-style-type: none">・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。・音を使った遊びや活動が考えられる保育者を育成する。・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

6. その他

毎年2月には入学予定者（初心者・未経験者）に対して、ピアノ演習特別講座を6日間（2コマ×6日）実施している。1回目では入学予定者全員に音楽・ピアノについての調査を実施し、受講が必要と感じられた学生に2回目からレッスンを実施。入学までにピアノに触れる機会を設けることで、ピアノに対しての不安を取り除き、入学後も意欲をもって取り組めるようにすることが目的である。こちらは音楽教員全員で指導にあっている。2021年度入学生に対しては希望者のみ一人30分の個人レッスンを2回、2022年度入学生に対しては、フローチャートで未経験・初級者となった学生に対して4回、コロナ感染対策を十分に行ったうえで実施した。

7. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（音楽 ピアノA ピアノB 音楽表現の探究）
- (2) 授業時配布プリント（一部）（音楽 ピアノB 音楽表現の探究）
- (3) 試験問題（音楽前期：筆記 後期：実技）
（ピアノA・B 音楽表現の探究：実技）
- (4) 成績集計結果（音楽 ピアノA・B 音楽表現の探究）

(5) 授業アンケート結果の考察